

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 22 年度 第 2 回高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 22 年 8 月 30 日 (木) 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 職員研修室
議 題	(1) 高松市地球温暖化対策実行計画 (案) について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	14 人
	嘉門会長, 熊副会長, 井上委員, 片山委員, 勝浦委員, 河崎委員, 関委員, 田阪委員, 多田委員, 長坂委員 (代理: 久米), 野田委員, 古川委員, 山田委員, 横山委員
欠席委員	4 人
傍 聴 者	なし (傍聴席: 10 席)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

### 審議経過および審議結果

協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

次のとおり、協議会を開催した。

(1) 高松市地球温暖化対策実行計画 (案) について

(事務局より説明)

以後審議

(委 員)

計画 (案) 47 ページにある「関心喚起・意識啓発」の中で、「環境教育・環境学習の推進」とあるが、人材育成が入るのではないか。

(事務局)

人材育成については、市民実践組織の中で、市民・事業者・行政が連携しながら取り組んでいきたい。その中で、人材養成であるとか、身近な取組などに、どういった観点から取り組んだらいいか、どういった項目から取り組んだらいいかを、こちらから情報発信するだけでなく、そういった組織を立ち上げて、どういう取組をするのが一番効果的なのかなど、検討していきたいと考えている。その中で、具体的な取組を進めていきたいと考えている。

(会 長)

市は環境リーダーがあるということだが、それはどこに出ているのか。

(事務局)

## 審議経過および審議結果

環境リーダーという言葉は、今、出ていない。今、取組を進めようとしている部分がある。人材育成の視点については「関心喚起・意識啓発」の中で追加したい。

(会 長)

修正案60ページの進行管理指標が追加されているが、以前の38ページと同じ内容か。

(事務局)

基本的には、前の「主な削減効果」を元にしていて、例えば、「省エネ行動の実践」などを進行管理指標としたとき、市民が省エネ行動をしているということをどうやって捉えるのか、数量的にも把握が難しい部分がある。アンケートを実施して、「実際取り組んでいる」というようにすることは可能であると思うが、主な削減効果を念頭に、データとして取れるもの、一般の人が見たときにイメージしやすいもの、そういった観点から指標をピックアップした。

(会 長)

52ページの「施策の削減効果」で、「太陽光発電の導入」の削減見込量が、前回の38ページの数値と異なっているが、どういうことか。

(事務局)

当初の38ページは2007年からの削減量を計算しており、今回は、基準年比で計算しているため、数値が変わっている。

(委 員)

52ページの「主な事例」の削減見込量の合計は、削減見込量全体の20%程度なので、せめて半分くらいは載せておかないと、おかしいのではないか。

(委 員)

「主な事例」の「環境負荷の少ないライフスタイル・事業活動の定着促進」の中で、事例をもう少し入れてもらいたい。その運輸部門で削減する中で、他に何があるのか分からない。

(事務局)

実際に、積み上げとして、細かい身近な取組や、省エネ機器への更新によるものなど、削減見込の積み上げとしてはあるが、削減見込量と主な事例による削減量の数字が乖離しているということは、もったいなので、どういう事例が適当であるのか、再度、検討したい。

(委 員)

「施策の削減効果」となっているが、高松市の施策によるものだと思うが、例えば次世代自動車に補助金を出す、または補助額を増やすなど、施策誘導をすることが可能であればここに載せるのはいいかと思うが、ないのであれば、高松市の施策でこれだけ減りましたということにはならないのではないか。

(事務局)

具体的に、自動車などに関して、補助のようなものは、現在考えていない。言われるように、施策として打ち出すのはどうかという部分もあるが、市としては、国・県のような次世代自動車に関する施策などの情報提供に努めていく。今後の取組としては、インセンティブのようなものも、状況を見ながら検討していく必要はあると思っている。それらを含めて、市の施策だけでというのは難しい部分があるが、国の取組状況等を踏ま

## 審議経過および審議結果

えて、ここには挙げているというところである。

(委員)

国の削減目標が、排出権取引なども含めて25%となっている。国の施策だけ、市の施策だけではないと思う。県も市も、啓発をする、情報提供する、可能であれば、インセンティブをするようになると思う。

(委員)

ガソリンを減らすのが一番だと思うので、施策体系の中で、「再生可能エネルギーの利用促進」と、「環境負荷の少ないライフスタイル・事業活動の定着促進」を逆にしたいと思う。

(委員)

重点的にやれるものを一番にもってくるのがいいと思う。

(事務局)

市は太陽光発電システム設置費補助をしているということもある。

(委員)

一般の方の意識が大事である。再生可能エネルギーも、環境負荷の少ないライフスタイル・事業活動のどちらも大事だと思う。

(会長)

エコシティたかまつ推進プロジェクトの中では、交通が1番にきていて、再生可能エネルギーである太陽光が2番にきているので、今のままでも混乱はないと思う。

## (2) その他

(事務局)

計画(案)についての協議は本日が最後とさせていただきたいと思う。意見などについては、これから嘉門会長と相談しながら修正し、事前に委員皆様にお送りさせていただき、確認させていただきたい。

(会長)

本日の会議はこれをもって終了する。

以上